

(13) 社会教育施設

1) 図書館

① 概要

本市には、図書館が5か所と図書館分室が8か所あります。

図書館は生涯学習の場として幅広い年齢層の方々の利用を想定しており、市民の求める資料や情報を積極的に収集し、提供しています。特に本市では、市民からの相談に応える「レファレンスサービス」にも積極的に取り組み、「市民のくらしに役立ち、誰もが気軽に利用できる親しみやすい魅力的な図書館」をめざしています。また、移動図書館も運営しています。

中央図書館は府内でも最大規模の蔵書（約76万冊）を有しており、CD資料も豊富です。穂積図書館は全国でも珍しい大型商業施設内に設置しているほか、分室は公民館等との複合施設となっています。

令和5年（2023年）には、中条図書館が文化・子育て複合施設 おにクル内に移転し、おにクルぶっくぱーくとしてオープンしました。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度等は導入していません。

延床面積は、中央図書館が約7,400㎡と突出しており、おにクルぶっくぱーくが約2,400㎡、他の図書館は約1,000～1,300㎡、分室は約90㎡となっています。

表 3-2-24 図書館の概要

No.	施設名	所在地	複合区分	運営形態	延床面積(㎡)	主要な建物の情報（R7年末現在）			
						主な建築年	経過年数	構造・階数	耐震性
図書館									
1	中央図書館	畑田町1番51号	複合	直営	7,449	H3	34	SRC・2	○
2	水尾図書館	水尾三丁目3番18号	単独	直営	1,290	H7	30	RC・2	○
3	庄栄図書館	庄二丁目26番12号	複合	直営	936	H10	27	RC・3	○
4	穂積図書館	松ヶ本町8番30号	※	直営	1,317	H13	24	—	○
5	おにクルぶっくぱーく	駅前三丁目9番45号	複合	直営	2,371	R5	2	RC・9	○
分室									
1	図書館大池分室	舟木町11番35号	複合	直営	75	S51	49	RC・2	○
2	図書館豊川分室	藤の里二丁目16番8号	複合	直営	83	H18	19	RC・2	○
3	図書館白川分室	鮎川一丁目8番17号	複合	直営	90	S59	41	RC・2	○
4	図書館天王分室	天王二丁目13番71号	複合	直営	88	S60	40	RC・2	○
5	図書館玉島分室	平田二丁目25番9号	複合	直営	88	S61	39	RC・2	○
6	図書館山手台分室	山手台三丁目32番2号	複合	直営	81	S62	38	RC・2	○
7	図書館太田分室	太田三丁目6番18号	複合	直営	87	H1	36	RC・2	○
8	図書館彩都西分室	彩都あさぎ一丁目3番4号	複合	直営	95	H24	13	RC・2	○

※穂積図書館は民間施設内に設置



中央図書館



水尾図書館

② 施設位置図

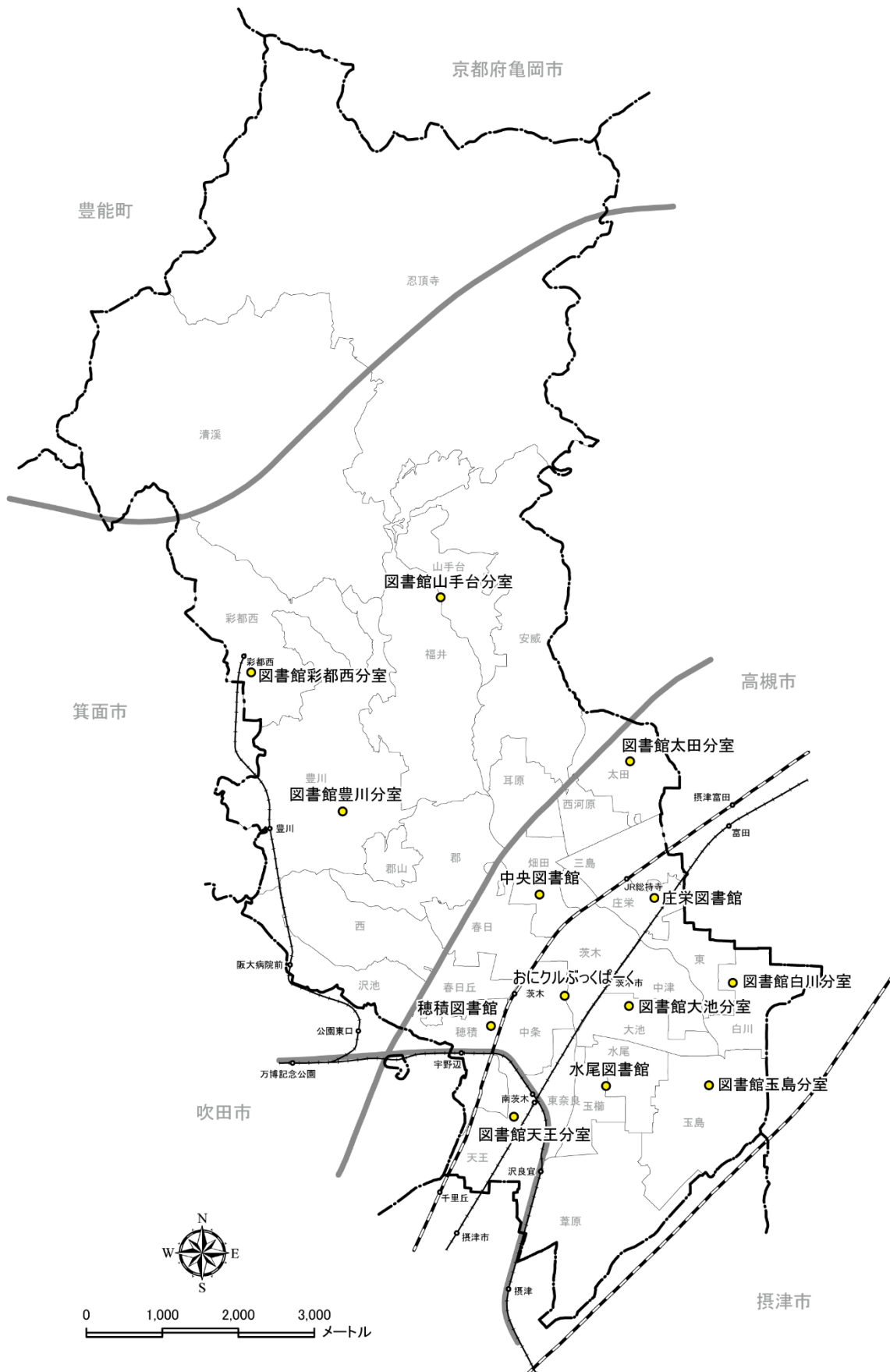


図 3-2-138 対象施設位置図 (図書館)

③ 利用の状況

図書館全体の貸出人数等の推移をみると、平成 22 年度（2010 年度）時点で約 113 万人をピークに減少傾向にあり、令和 6 年度（2024 年度）には約 83 万人となっています。また登録人数も平成 24 年度（2012 年度）の約 7 万 9 千人をピークに減少し、令和 3 年度（2021 年度）以降はやや増加傾向ですが、令和 6 年度（2024 年度）には約 5 万 6 千人となっています。

平成 28 年（2016 年）1 月に自動貸出機の導入や資料貸出点数の変更（図書の場合 8 冊から 20 冊に変更）を行ったこともあり、平成 28 年度（2016 年度）以降に貸出点数及び平均貸出冊数が増加に転じたものの、貸出点数は微減傾向にあります。

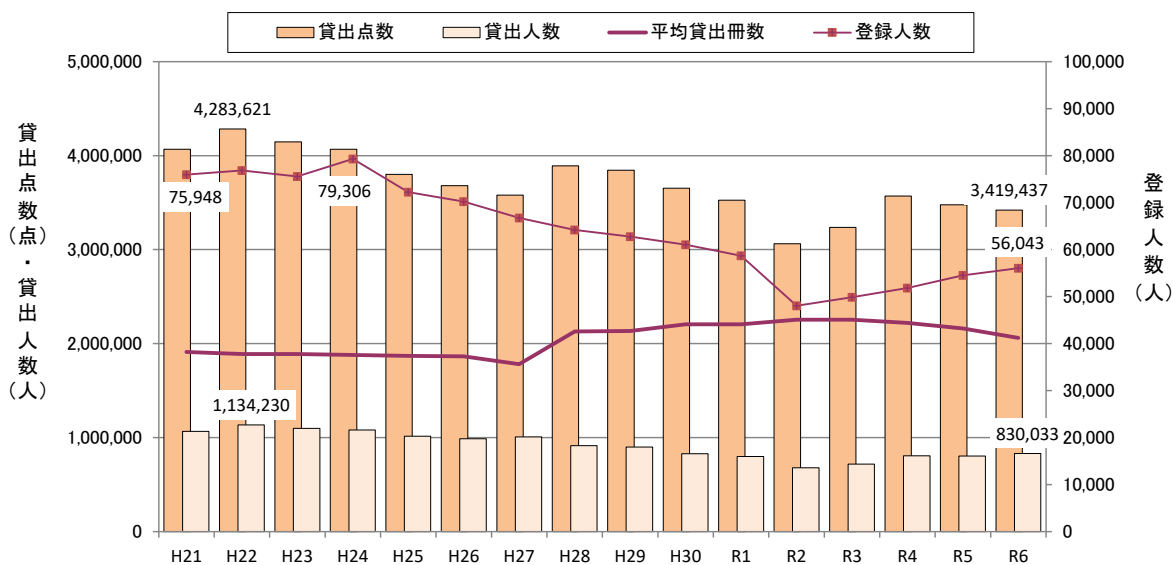
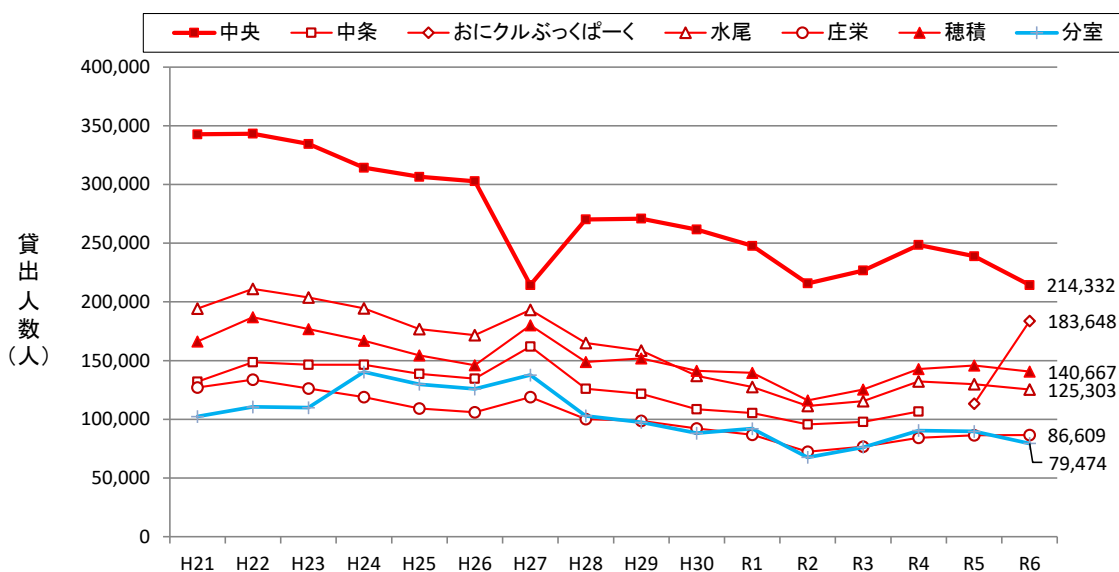


図 3-2-139 貸出人数等の推移

施設別の貸出人数の推移をみると、中央図書館が最も多く、年間の貸出人数が 20 万人を超えて推移しています。中条図書館は、おにクルぶっくぱーくに移行して以降、貸出人数が大きく増加しています。

また、分室貸出人数は減少傾向にあり、令和 6 年度（2024 年度）には、年間利用者は約 7 万 9 千人となっています。



※中央図書館は平成 27 年度（2015 年度）に改修工事のため一時閉館

図 3-2-140 施設別の貸出人数の推移

令和6年度（2024年度）の図書館の来館者数をみると、おにクルぶっくぱーくが約195万人となっており、次に多い中央図書館の約4.8倍になっています。

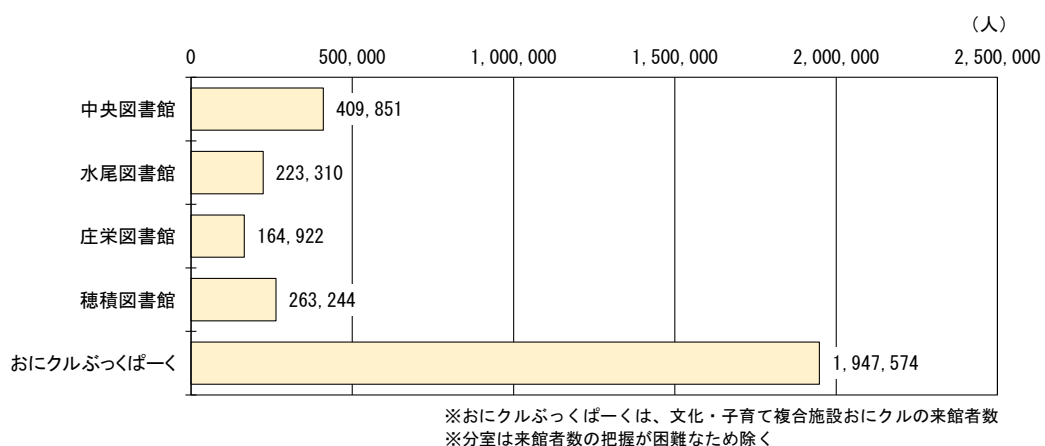


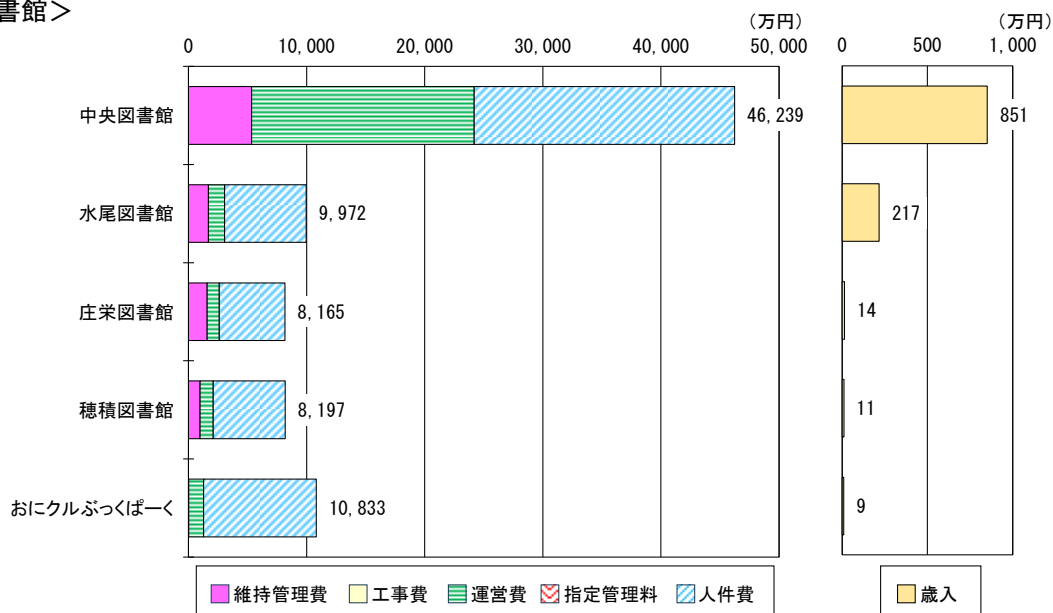
図 3-2-141 図書館の来館者数（令和6年度（2024年度））

④ 施設に関する総コストの状況

令和6年度（2024年度）の施設に関する総コストをみると、規模が大きい中央図書館で約4億6千万円と突出して高くなっています。残りの4つの図書館ではおおむね8千万円～1億円となっており、大半が人件費となっています。

分室についても、人件費が過半を占めている状況です。

<図書館>



<分室>

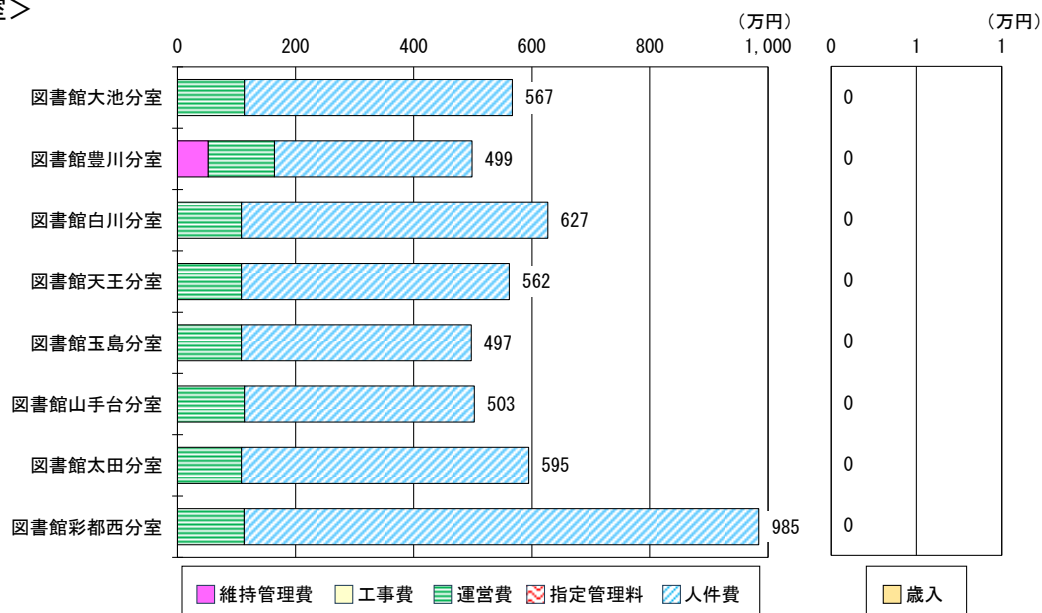


図 3-2-142 施設に関する費用と内訳（令和6年度（2024年度））

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積1㎡あたりで比較すると、図書館彩都西分室が約10万4千円、庄栄図書館で約8万7千円となっており、図書館、分室ともに極端な差はみられない状況となっています。

図書館の来館者1人あたりで比較すると、センター的機能を果たす中央図書館が約1,100円と高くなっています。また、分室の貸出人数1人あたりで比較すると、図書館天王分室が約1,500円で最も高くなっています。

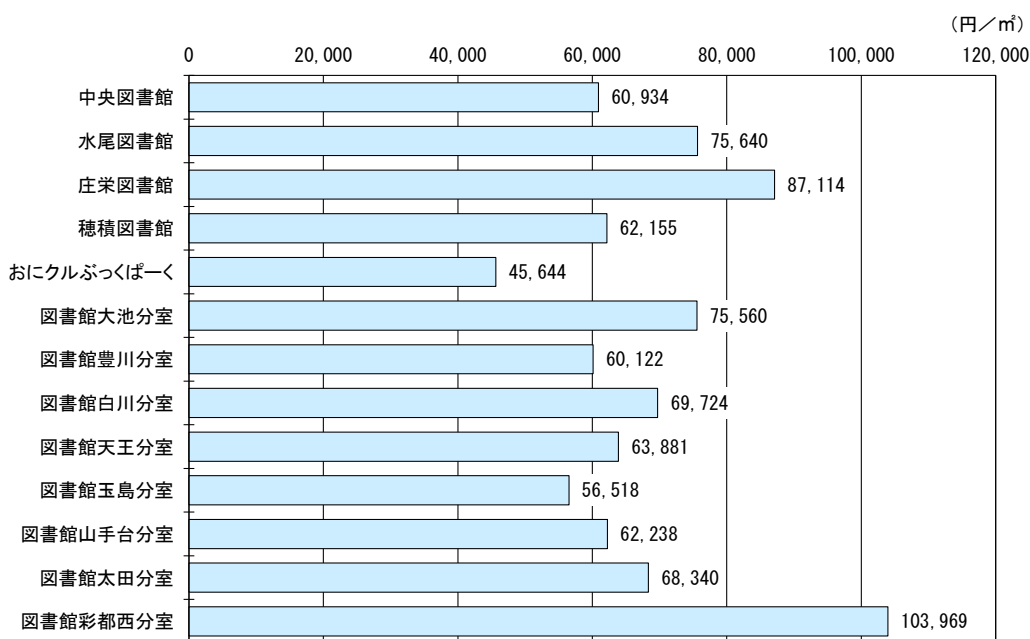


図 3-2-143 延床面積1㎡あたりの市負担コスト（令和6年度（2024年度））

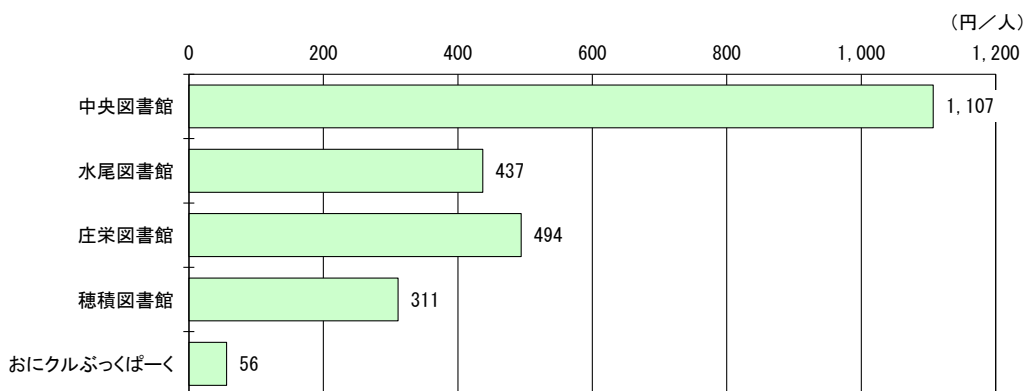


図 3-2-144 図書館の来館者1人あたりの市負担コスト（令和6年度（2024年度））

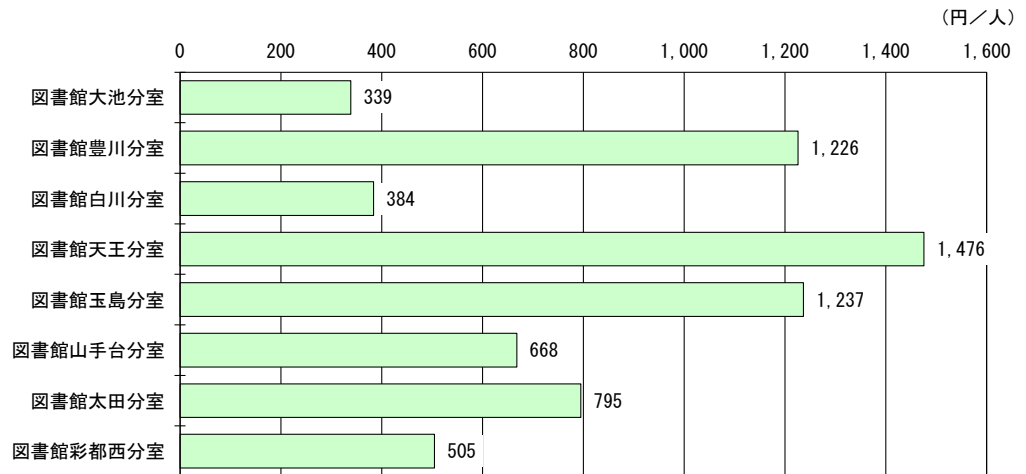


図 3-2-145 分室の貸出人数 1 人あたりの市負担コスト（令和 6 年度（2024 年度））

⑥ 単位あたりの利用状況

図書館の延床面積 1 m²あたりの来館者数をみると、おにクルぶつくば一くが 800 人を超えており、その他の中央図書館を除く 3 つの図書館はいずれも 150 人を超えています。大規模な書庫を有する中央図書館は約 55 人となっています。分室の延床面積 1 m²あたりの貸出人数をみると、場所ごとに差が大きく、大池分室、彩都西分室が 200 人を超えています。

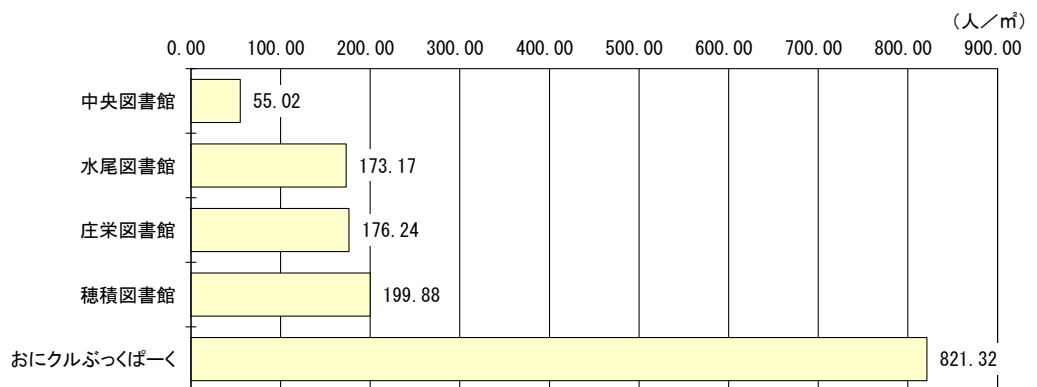


図 3-2-146 図書館の延床面積 1 m²あたりの来館者数（令和 6 年度（2024 年度））

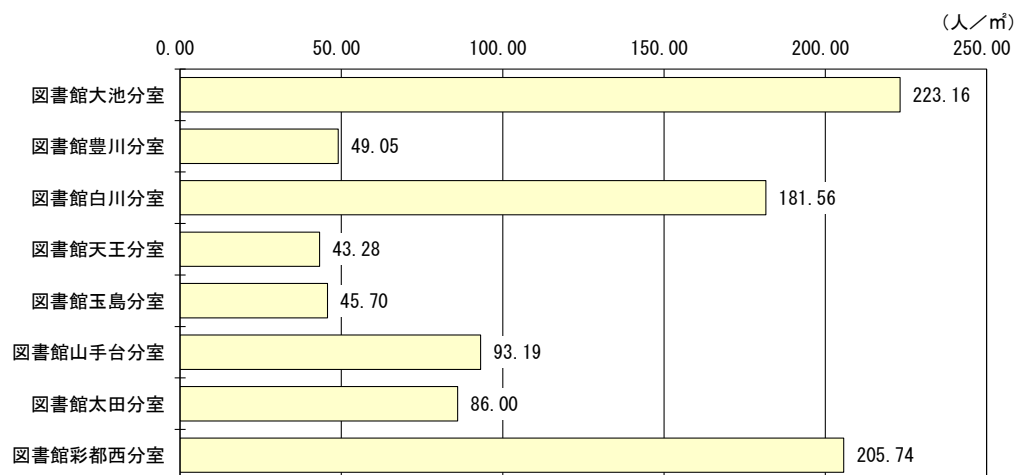


図 3-2-147 分室の延床面積 1 m²あたりの貸出人数（令和 6 年度（2024 年度））

2) 公民館

① 概要

本市には、公民館が33館と公民館分室が1か所あります。本書では、単独の公民館の建物を有する16か所（中央公民館とコミュニティセンターに併設している公民館を除く）について整理します。

公民館は、社会教育法に基づき、地域住民に最も身近な社会教育の拠点として、教育、学術及び文化に関する事業を行い、教養の向上、健康の増進、生活文化の振興など、地域に根ざした活動を行っています。より多くの市民が参加できる地域活動の拠点とするため、公民館のコミュニティセンター化を地域の実情に応じて進めています。

延床面積は、玉島公民館、太田公民館、天王公民館、白川公民館が約1,000㎡を超えており、700㎡～1,000㎡の施設が3か所となっていますが、残りの施設はおおむね400～500㎡となっています。半数となる8か所の施設において、建築後40年を経過しており、その中でも中条公民館と太田公民館分室は50年を超えています。

表 3-2-25 公民館の概要

No.	施設名	所在地	複合区分	運営形態	延床面積(㎡)	主要な建物の情報 (R7年末現在)			
						主な建築年	経過年数	構造・階数	耐震性
公民館									
1	茨木公民館	東宮町1番19号	単独	直営	882	S57	43	RC・2	○
2	春日丘公民館	下穂積三丁目5番5号	単独	直営	555	S63	37	RC・2	○
3	中条公民館	下中条町3番27号	単独	直営	782	S44	56	RC・2	○
4	安威公民館	安威二丁目16番12号	単独	直営	840	H15	22	RC・2	○
5	玉島公民館	平田二丁目25番9号	複合	直営	1,077	S61	39	RC・2	○
6	福井公民館	東福井二丁目4番40号	単独	直営	432	S53	47	RC・2	○
7	清溪公民館	大字泉原332番地の3	複合	直営	372	S60	40	RC・2	○
8	見山公民館	大字下音羽163番地	単独	直営	419	S61	39	RC・2	○
9	石河公民館	大字大岩347番地の1	単独	直営	398	S59	41	RC・2	○
10	太田公民館	太田三丁目6番18号	複合	直営	1,037	H1	36	RC・2	○
11	太田公民館分室	太田二丁目6番1号	単独	直営	498	S49	51	RC・2	○
12	天王公民館	天王二丁目13番71号	複合	直営	1,061	S60	40	RC・2	○
13	郡山公民館	新郡山二丁目30番53号	単独	直営	589	H8	29	RC・2	○
14	耳原公民館	耳原二丁目18番14号	単独	直営	468	S63	37	RC・2	○
15	白川公民館	鮎川一丁目8番17号	複合	直営	1,072	S59	41	RC・2	○
16	西公民館	北春日丘四丁目7番2号	単独	直営	438	H1	36	RC・2	○



中条公民館



見山公民館

② 施設位置図

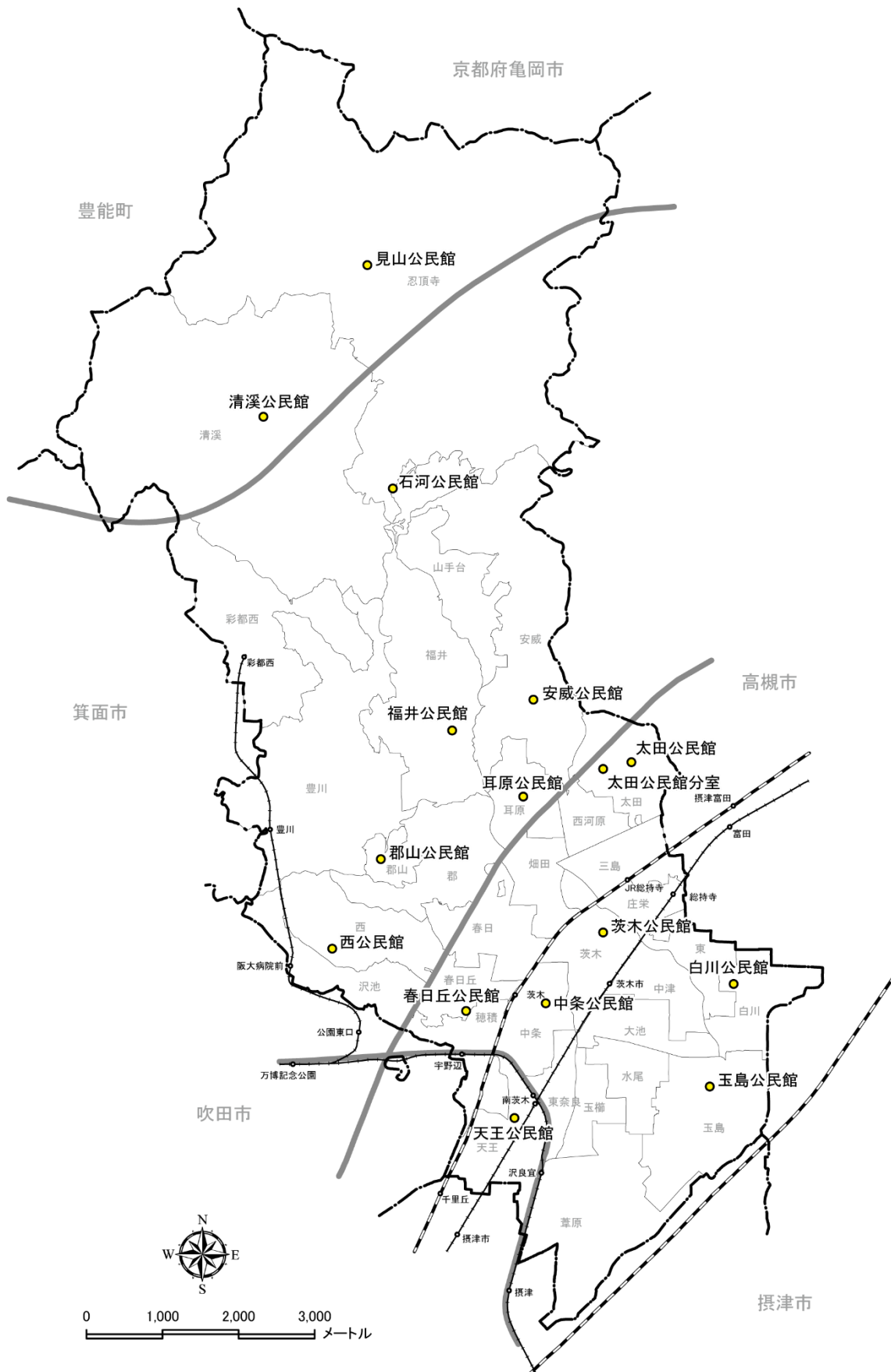


図 3-2-148 対象施設位置図 (公民館)

③ 利用の状況

公民館の利用者をみると、令和6年度（2024年度）では、茨木公民館の利用者が最も多く約2万7千人となっていますが、清溪公民館、見山公民館、石河公民館では3千人以下となっています。公民館には大会議室をはじめとする5～7室の貸室を有しており、その合計の稼働率（総利用可能コマ数に対する総利用コマ数の割合）をみると、中条公民館で約50%、茨木公民館で約40%となっていますが、その他の施設では40%以下となっています（貸室・時間帯別の稼働率の詳細については、3-3で整理しています）。

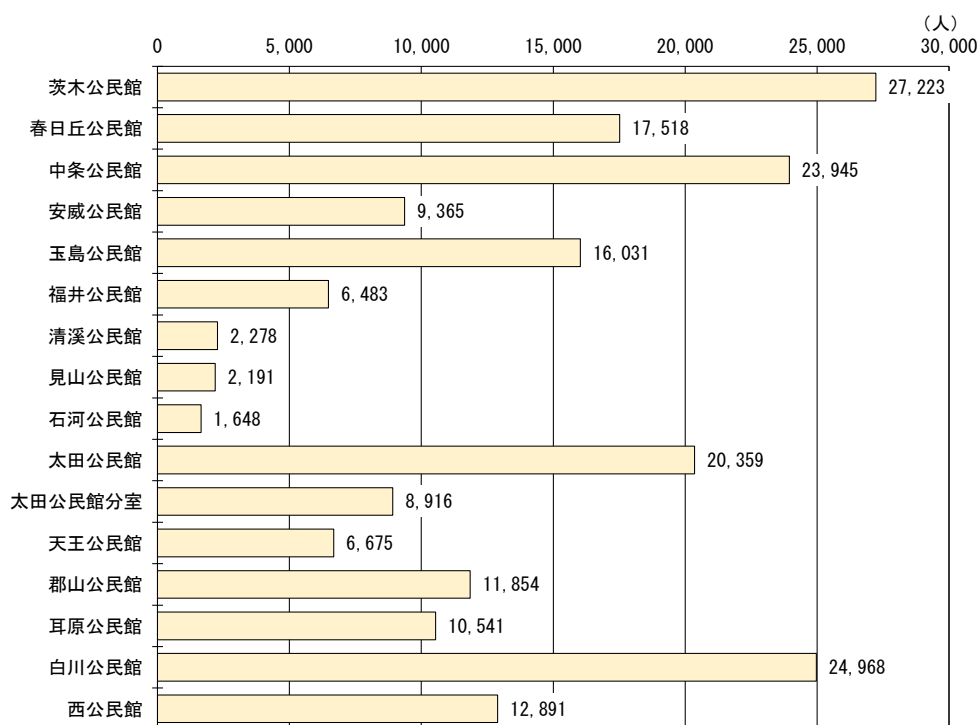


図 3-2-149 施設の利用者数（令和6年度（2024年度））

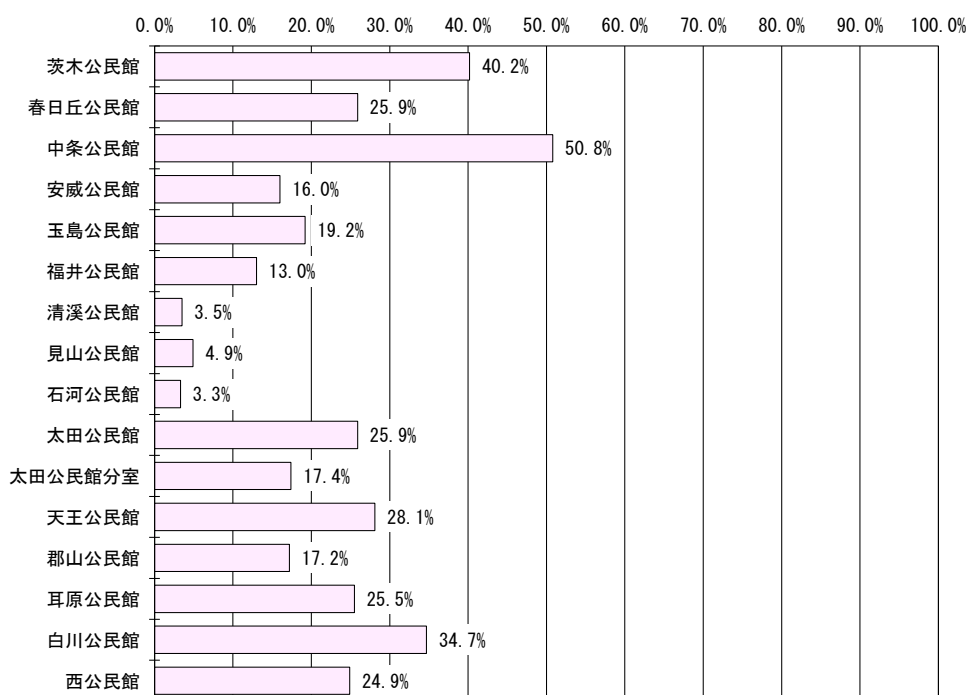


図 3-2-150 施設の貸室の稼働率（令和6年度（2024年度））

④ 施設に関する総コストの状況

令和6年度（2024年度）の施設に関する総コストをみると、内装改修工事を実施した天王公民館で約1億7千万円と高くなっています。

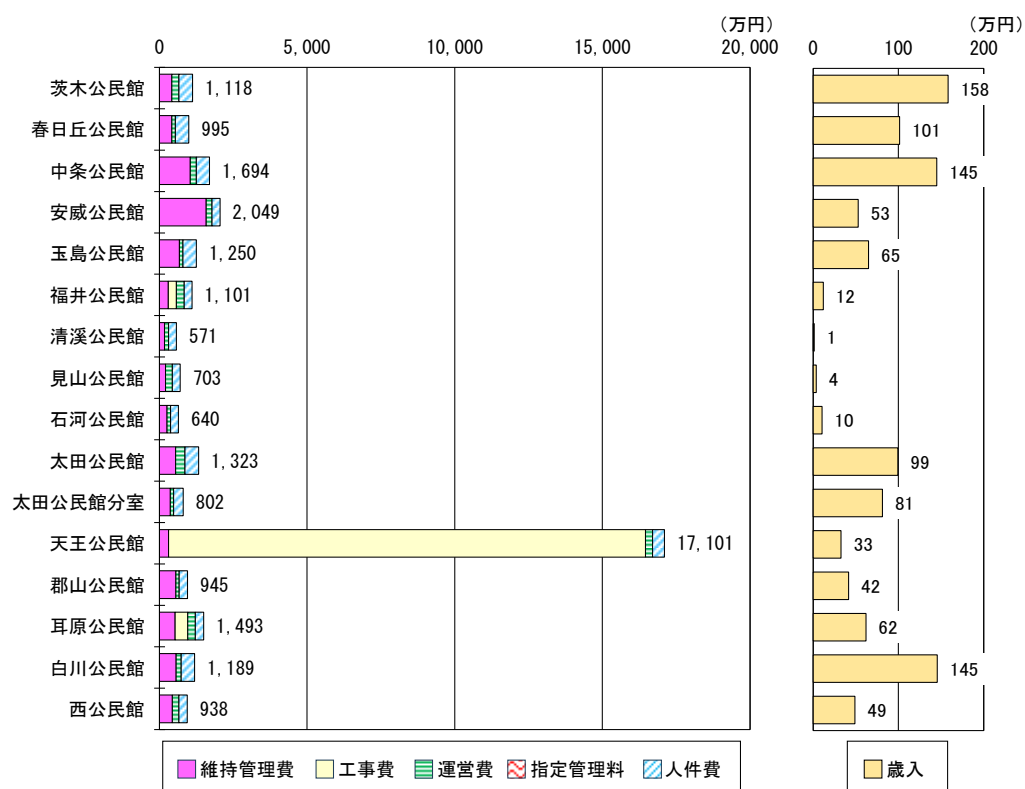


図 3-2-151 施設に関する費用と内訳（令和6年度（2024年度））

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積1㎡あたりで比較すると、安威公民館、耳原公民館、西公民館が2万円を上回っています。

利用者1人あたりで比較すると、石河公民館、見山公民館が3千円以上、清溪公民館、安威公民館が2千円以上と他の施設と比べ高くなっています。

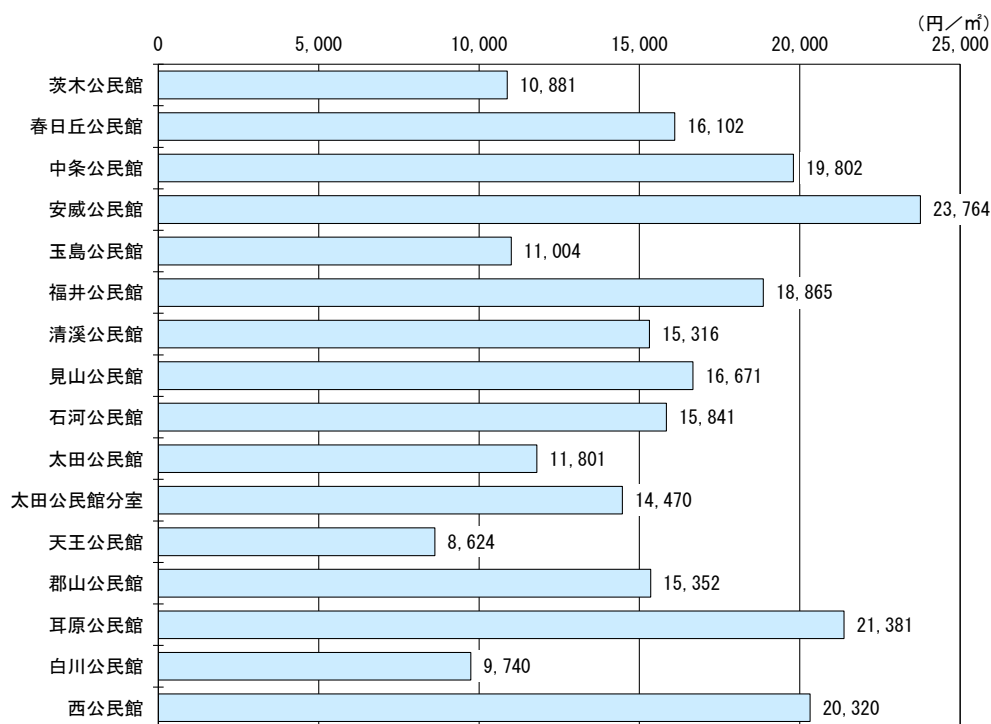


図 3-2-152 延床面積1㎡あたりの市負担コスト（令和6年度（2024年度））

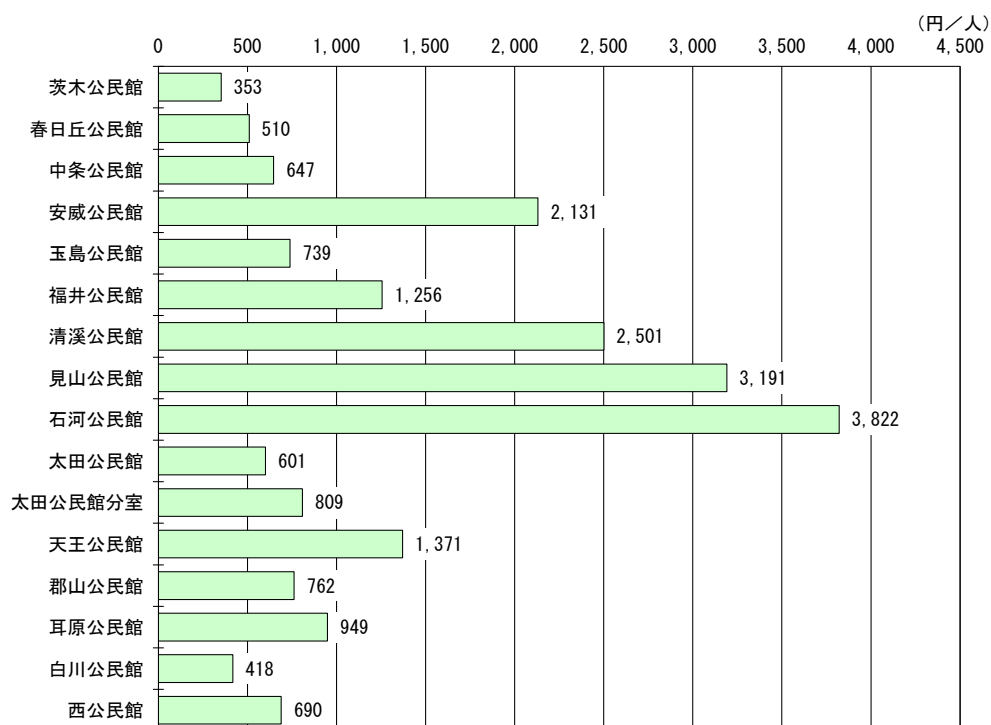


図 3-2-153 利用者1人あたりの市負担コスト（令和6年度（2024年度））

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 1 m²あたりの利用者数をみると、春日丘公民館、茨木公民館、中条公民館、西公民館で約 30 人と高く、清溪公民館、見山公民館、石河公民館、改修工事に伴い一時休館していた天王公民館では 10 人以下と低くなっています。

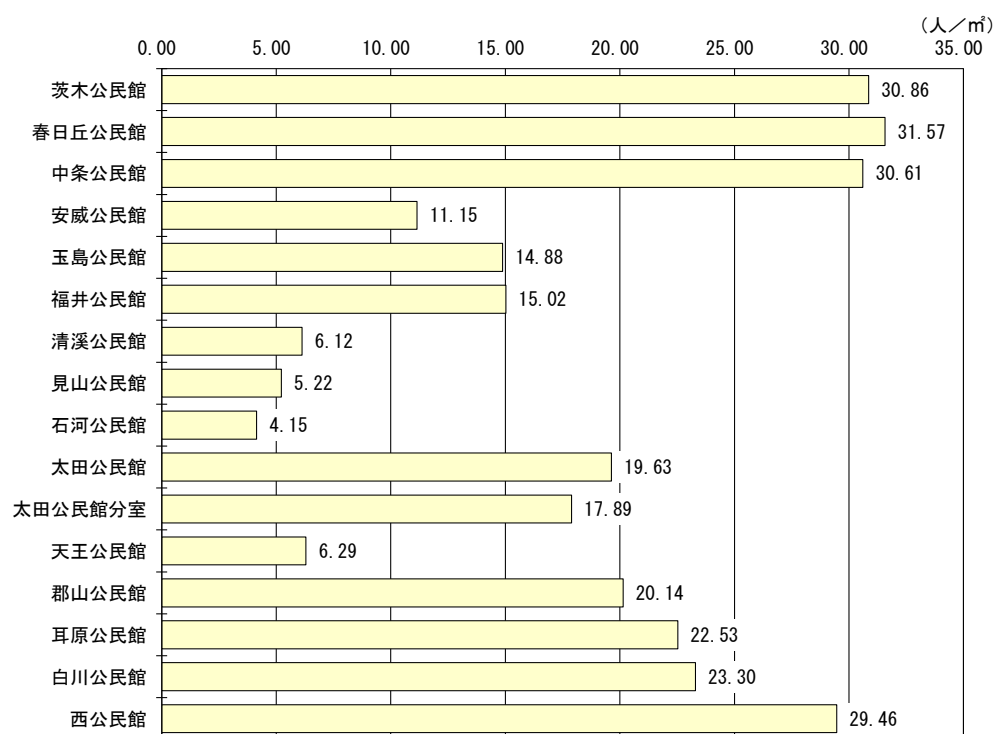


図 3-2-154 延床面積 1 m²あたりの利用者数（令和 6 年度（2024 年度））

3) 青少年健全育成施設

① 概要

本市には、青少年健全育成施設として、上中条青少年センターと青少年野外活動センターがあります。

上中条青少年センターは、市内在住・在学・在勤の青少年の育成を図るため、自学自習用の学習室や本格的な音響設備を備えた音楽視聴覚室等の貸室のほか、子どもセミナー等の主催事業を通じて体験学習の機会を提供しており、川端康成文学館との複合施設となっています。

青少年野外活動センターは、銭原地域に立地し、青少年が豊かな自然の中で協力・友愛・奉仕の心を育み、たくましい実践力を培うことを目的とした野外活動施設となっています。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度等は導入していません。

表 3-2-26 青少年健全育成施設の概要

No.	施設名	所在地	複合区分	運営形態	延床面積(m ²)	主要な建物の情報 (R7年末現在)			
						主な建築年	経過年数	構造・階数	耐震性
青少年センター									
1	上中条青少年センター	上中条二丁目11番22号	複合	直営	3,290	S60	40	RC・4	○
青少年野外活動センター									
1	青少年野外活動センター	大字銭原115番地	単独	直営	3,046	S50	50	RC・1	○



上中条青少年センター



青少年野外活動センター

② 施設位置図

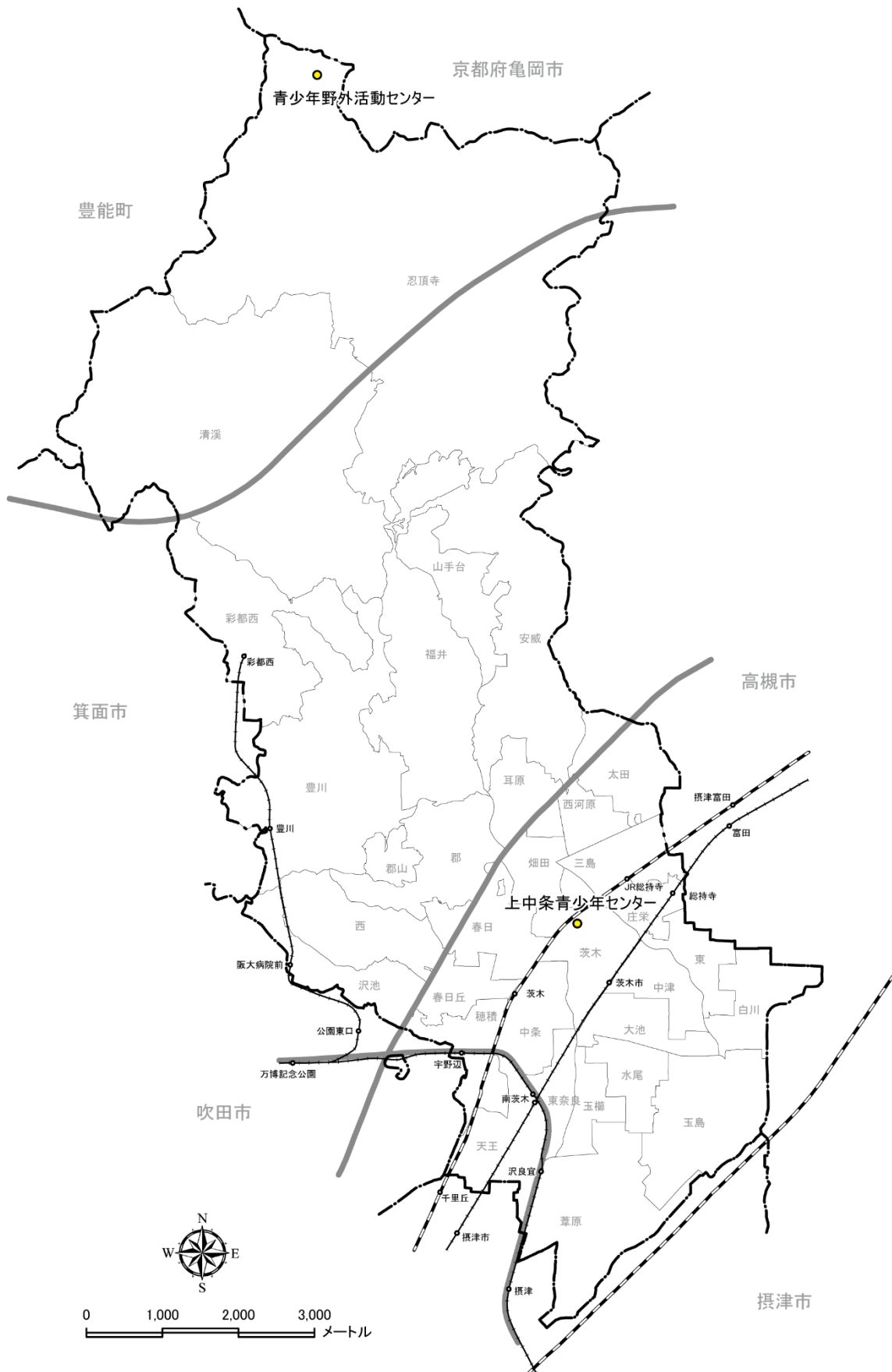


図 3-2-155 対象施設位置図（青少年健全育成施設）

③ 利用の状況

年間の利用者の推移をみると、上中条青少年センターは、令和元年度（2019年度）までおおむね約4～5万人で推移し、令和2年度（2020年度）～令和4年度（2022年度）には、新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受け、利用者数が減少しました。令和5年度（2023年度）から一部貸室が1時間ごとに利用可能となったため、利用者の延べ人数が約12万2千人まで増加し、令和6年度（2024年度）は約11万4千人となりました。青少年野外活動センターは、おおむね横ばいで推移しており、令和6年度（2024年度）の利用者は約8千人です。

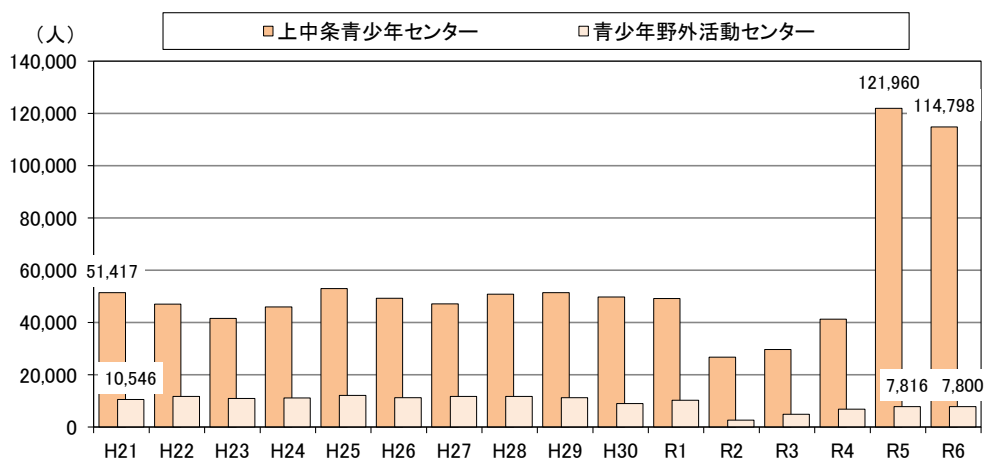
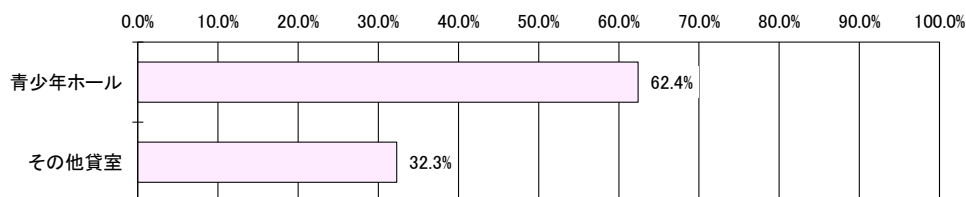


図 3-2-156 施設の利用者数の推移

上中条青少年センターは、青少年ホール（定員 350 人）をはじめ、会議室等の貸室を複数有しています。それらの稼働率（総利用可能コマ数に対する総利用コマ数の割合）をみると、青少年ホールで 62.4%、その他の貸室で 32.3%となっています（貸室・時間帯別の稼働率の詳細については、3-3 で整理しています）。



※その他貸室稼働率(料理室、和室、児童室、第一会議室、第二会議室、音楽視聴覚室の稼働率の合計)

図 3-2-157 上中条青少年センターのホール・貸室の稼働率（令和6年度（2024年度））

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度（2016 年度）の施設に関する総コストをみると、上中条青少年センターで約 5 千万円、青少年野外活動センターで約 1 億 4 千万円となっており、維持管理費の割合が高くなっています。

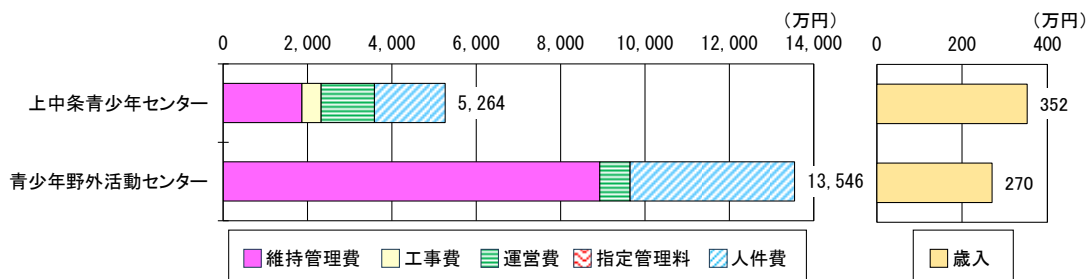


図 3-2-158 施設に関する費用と内訳 (令和 6 年度 (2024 年度))

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、敷地に対して建物の占める割合が小さい青少年野外活動センターで約 4 万 4 千円と高く、上中条青少年センターで約 1 万 4 千円となっています。

また、利用者 1 人あたりで比較すると、青少年野外活動センターが約 1 万 7 千円、上中条青少年センターで約 400 円となっています。

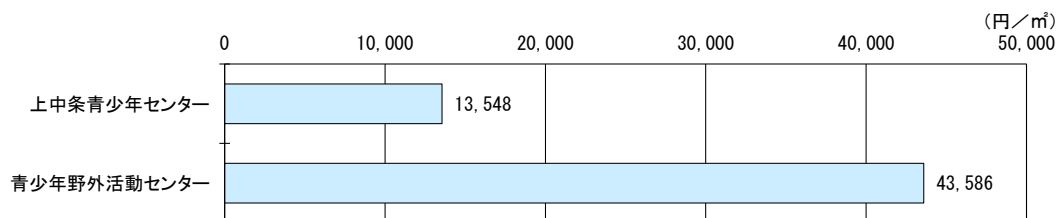


図 3-2-159 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト (令和 6 年度 (2024 年度))

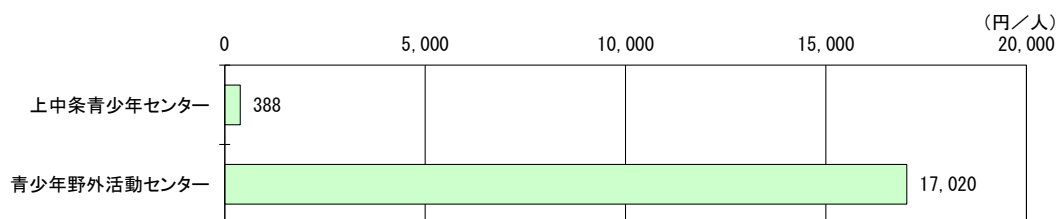


図 3-2-160 利用者 1 人あたりの市負担コスト (令和 6 年度 (2024 年度))

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 1 m²あたりの利用者数をみると、上中条青少年センターで約 35 人、青少年野外活動センターで約 3 人となっています。

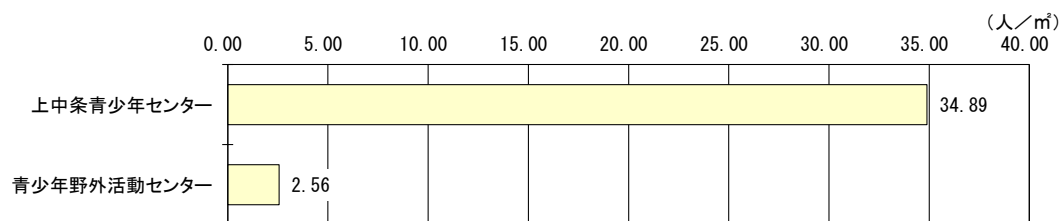


図 3-2-161 延床面積 1 m²あたりの利用者数 (令和 6 年度 (2024 年度))

4) 文化財施設

① 概要

本市には、文化財施設として、文化財資料館とキリシタン遺物史料館があります。

文化財資料館は、市民がまちの歴史や文化に親しみ、郷土愛を育てる場として、銅鐸の鋳型が発見された東奈良遺跡や時代ごとに沿った茨木の歴史、暮らしのなかで使われた民俗資料など、先人たちが残した貴重な文化財を展示しています。また、郷土史料室では古文書などの文献資料や歴史関係の図書を閲覧できます。

キリシタン遺物史料館は、「隠れキリシタンの里」として有名な千提寺地区に立地する、木造平屋建ての小規模な施設です。茨木のキリシタンの歴史や、発見された遺物を展示公開しています。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度等は導入していません。

表 3-2-27 文化財施設の概要

No.	施設名	所在地	複合区分	運営形態	延床面積(m ²)	主要な建物の情報 (R7年末現在)			
						主な建築年	経過年数	構造・階数	耐震性
文化財施設									
1	文化財資料館	東奈良三丁目12番18号	単独	直営	1,913	S58	42	RC・2	○
2	キリシタン遺物史料館	大字千提寺262番地	単独	直営	109	S62	38	W・1	○



文化財資料館



キリシタン遺物史料館

② 施設位置図

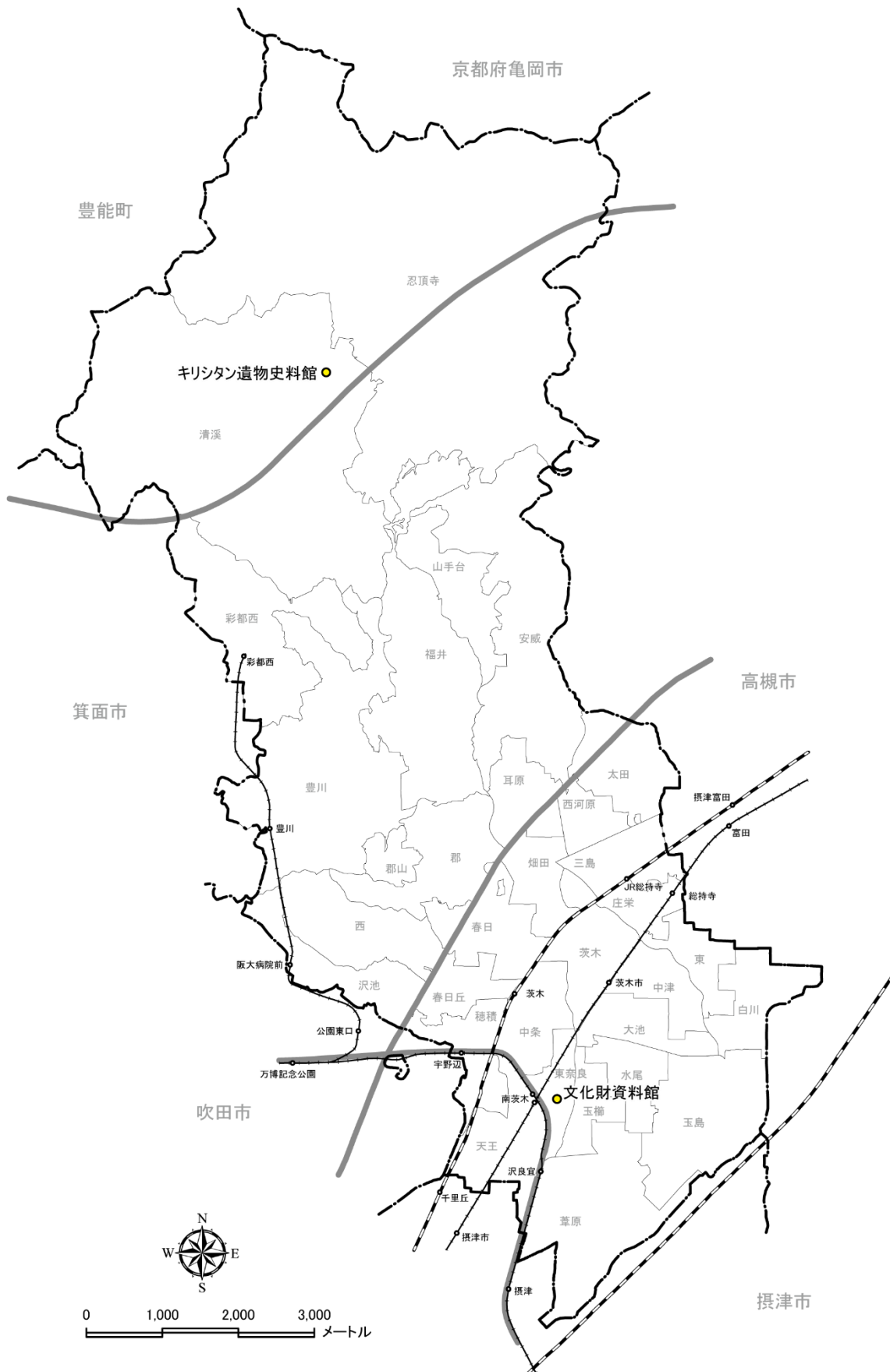


図 3-2-162 対象施設位置図（文化財施設）

③ 利用の状況

年間の来館者数の推移をみると、文化財資料館は平成 24 年度（2012 年度）、キリシタン遺物史料館は平成 25 年度（2013 年度）をピークに微増減を繰り返しながら推移しています（令和 2 年度（2020 年度）～令和 4 年度（2022 年度）を除く）。令和 6 年度（2024 年度）の来館者数は文化財資料館で約 1 万 3 千人、キリシタン遺物史料館で約 5 千人となっています。

文化財資料館の来館者について個人と団体の割合を比較すると、いずれの年度も個人の方が多く、令和 6 年度（2024 年度）には個人が約 91%を占めている状況です。市内の小学校と連携し、3 年生と 6 年生の社会見学等でも利用されていることから、団体での来館者数割合は近年増加傾向がみられます。

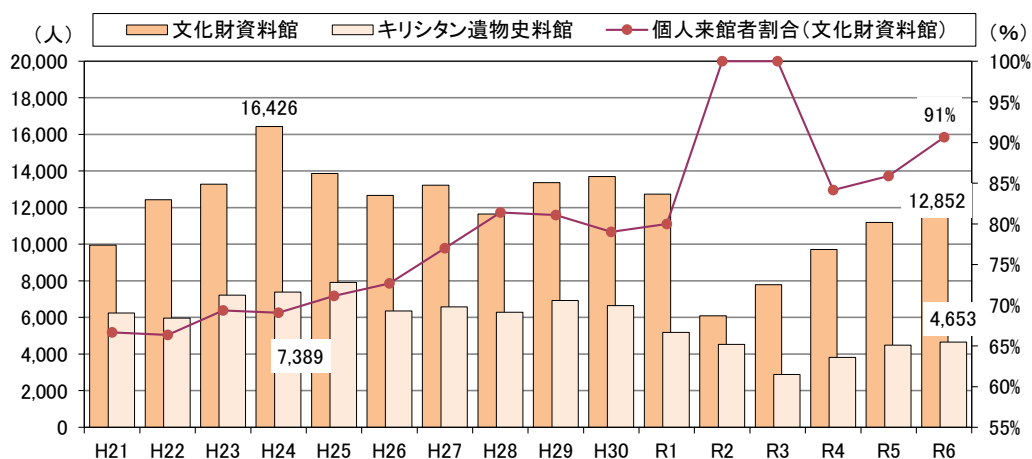


図 3-2-163 施設の利用者数の推移

④ 施設に関する総コストの状況

令和 6 年度（2024 年度）の施設に関する総コストをみると、文化財資料館で約 5 千万円、キリシタン遺物史料館で約 500 万円となっており、いずれの施設でも人件費の割合が大部分を占めています。

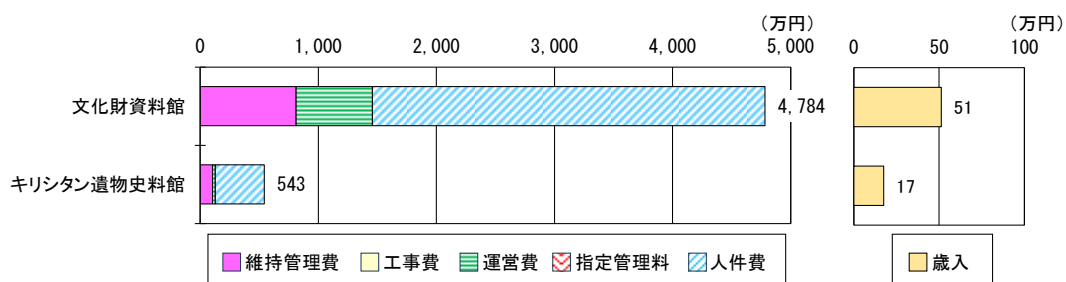


図 3-2-164 施設に関する費用と内訳 (令和 6 年度 (2024 年度))

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積1㎡あたりで比較すると、規模の小さなキリシタン遺物史料館で約4万8千円と高く、文化財資料館で約2万5千円となっています。

また、利用者1人あたりで比較すると、文化財資料館が約4千円、キリシタン遺物史料館で約千円となっています。

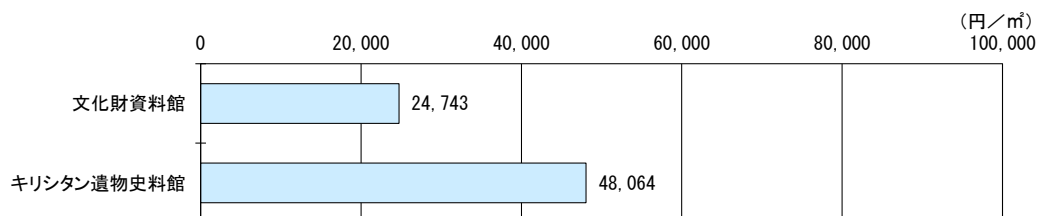


図 3-2-165 延床面積1㎡あたりの市負担コスト（令和6年度（2024年度））

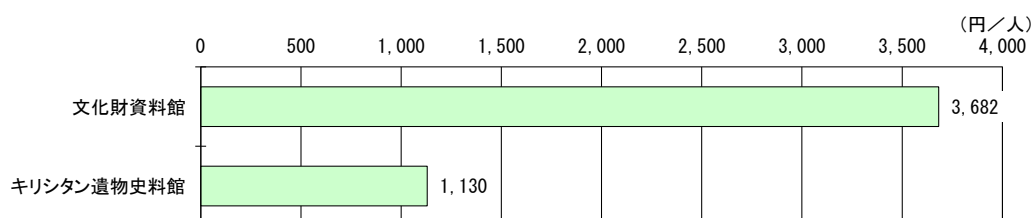


図 3-2-166 利用者1人あたりの市負担コスト（令和6年度（2024年度））

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積1㎡あたりの利用者数をみると、規模の小さなキリシタン遺物史料館で約43人、文化財資料館で約7人となっています。

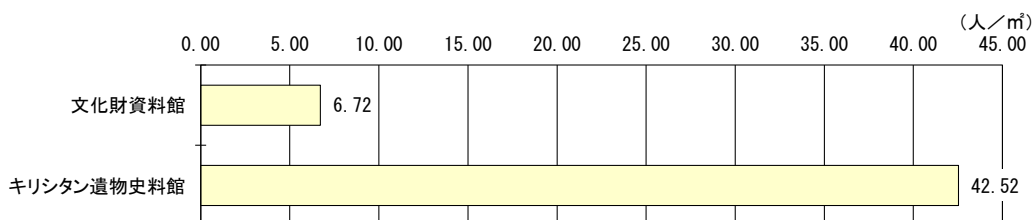


図 3-2-167 延床面積1㎡あたりの利用者数（令和6年度（2024年度））